

伊万里 市議会だより

第26号

平成20年
(2008年) 7月



田植えてむずかしいね

(大川内小学校・大川内保育園・伊万里養護学校)

6月補正額：2,070万円

補正後の予算

一般会計：193億8,870万円
(対前年度同期 △4億5,084万円、△2.3%)

★平成20年第3回定例会は9月2日(火)開会予定です。

平成20年伊万里市議会第2回定例会 会期日程

6月

開議時刻 午前10時

日	種別	内容
10(火)	本会議	開会 会議録署名議員の指名 会期の決定 市長提出議案等18件・・・一括上程 市長提出議案等の提案理由説明
12(木)	本会議	議案等に対する質疑
13(金)	本会議	議案等に対する質疑 議案の常任委員会付託
16(月)	本会議	一般市政に対する質問
17(火)	本会議	一般市政に対する質問
18(水)	本会議	一般市政に対する質問
19(木)	休会	常任委員会
20(金)	休会	常任委員会
23(月)	休会	正副委員長会
25(水)	本会議	議会議案2件、決議案1件、 意見書案3件 } 上程 議会議案等の提案理由説明 議会議案等に対する質疑 常任委員会報告 常任委員会報告に対する質疑 議案の付議順序により討論、採決 閉会

議会ホットコーナー

市民病院2題

★8月1日から土曜日の外来診療は救急患者のみとなります

救急医療をはじめとする医療体制を現在の医師数で維持するには、医師の負担軽減を図る必要があるためです。全員協議会に小関院長がお見えになり、現状を詳しく説明して頂きました。

★9月1日から小児科診療を再開します

懸案の医師確保が出来、着任されます。かつて市民病院に勤務されていた先生のように、1人体制では時間外や夜間の対応は出来ませんが、小児科で市内唯一の入院可能な病院として、開業医と連携しながら小児医療の充実を図ります。

(休日・夜間は「休日・夜間急患医療センター」

☎23-9910 へ)

ご理解とご協力をお願いいたします。



意見書

「森林・林業・木材産業施策の積極的な展開を求める意見書」

近年、地球温暖化防止への要請が高まるなかで、森林の持つ役割に強い期待が寄せられており、林業の担い手対策の充実と地域林業及び木材産業の振興等の積極的な林政の展開を求めるものです。

「教育予算・社会保障予算の拡充を求める意見書」

子ども達に豊かな教育を保障するための少人数学級の推進や、学校施設の充実を図るための義務教育費国庫負担割合の増加及び、医療・介護などの社会保障予算の確保を求めるものです。

「後期高齢者医療制度の見直しを求める意見書」

四月から開始された本制度は、実施内容の一部においてなお一層の考慮の要望が高まっており、その運用等の改善、見直しを求めるものです。

地方自治法第99条の規定により関係機関に意見書を提出しました。

総務委員会

★所管 総務部、政策経営部、市民部(戸籍・住民登録等)、会計課、消防本部、選挙管理委員会、監査委員、他の委員会に所属しない事項

委員会に付託された条例議案2件、規約変更協議案1件、補正予算議案1件について慎重審査の結果、原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

伊万里市税徴収等の特例に関する条例の一部を改正する条例については、地方税法の一部改正に伴い、特例を適用する市税の範囲を変更するため。

伊万里市報酬及び費用弁償条例の一部を改正する条例については、非常勤環境センター所長及び水道技術嘱託員に報酬を支給するため。

佐賀県市町総合事務組合理約の変更については、新たに武雄市が事務組合の共同処理に参加することに伴い、地方自治法第290条の規定により、議会の議決を要し、その変更を認めました。

特に報酬及び費用弁償条例の一部を改正する条例案については、非常勤といえどもポストを増設することが職員給与費の増額につながるため、今迄の職員体制を維持できないかとの意見も出されたが、環境課長と環境センター所長の兼務では多忙をきわめ、勤務体制に限界があるとの理由で改正案を認め、水道技術嘱託員については、10年以上の経験を有する者、又は水道工事に従事した者に限るといった条件の説明を受けました。

補正予算議案については、各種訪問団の交流事業費が計上されましたが、大連市長招聘による2008第8回アジア・太平洋都市サミッ



文化交流風景(大連市)

トへの参加及び親子による文化・スポーツを通じたふれあい交流を行う伊万里市・大連市青少年友好交流事業に要する経費として認めたとあります。

また、委員会2日目に下記の現地視察を実施しました。

消防署においては、総務委員会との関連性を重く受けとめ、心肺蘇生法とAED(自動体外式除細動器)の使用について1時間に渡って講習を受けました。

家庭や職場で生じる突然のケガや病気、中でも重篤で緊急を要するものは、心臓や呼吸が止まってしまった場合です。救急車の到着までに、その場に居合わせた人による救命処置がいかにか重要であるか認識させられました。現在学校現場や多くの公共施設にAEDが設置されていますが、一度だけの講習ではなく定期的な実施訓練が必要と思われます。



救命救急講習(消防署)

市民活動支援センター「市民交流プラザ」の視察については、開設前に1度視察を行い、今回で2回目であります。4月に開所して以来、利用団体数は徐々にではあるが増加の傾向にあるようです。センター利用の目的は、まちづくりのためというコンセプトであり、利用者を限定することなく、PRに努め、利用者増を図るよう指摘したところです。現在運営は直接伊万里市が関与しているが、将来に渡っては利用者団体によるネットワーク化を進め、利用者、団体によって自主的に運営されることが望ましいと感じたところです。

◎笠原 義久 ○樋渡 雅純
前田 教一 多久島 繁 松永 孝三
船津 賢次 前田 久年 下平 美代

文教厚生委員会

★所管 市民部（保健・福祉・環境・人権同和）、
教育委員会、市民病院

当委員会に付託された条例議案2件、および補正予算議案1件について審査の結果、近世陶磁器窯跡の盗掘防止がなお一層図られるよう要望意見を付し、原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

文化財条例の一部改正では、市内にある約80箇所の近世陶磁器窯跡の数箇所で、近年発生している盗掘の防止と窯跡保護を図るため、「伊万里市文化財保護条例」の罰則強化が提案されました。従来は、「3万円以下の罰金又は科料※」でしたが、「1年以下の懲役若しくは禁錮又は20万円以下の罰金若しくは科料」とする内容で、昨年改正された佐賀県条例に則ったものです。また、教育委員会の許可なしに現状変更等をした場合も「2万円以下の罰金又は科料」から「10万円以下の罰金又は科料」となります。施行は周知機関を取るため10月1日としています。6月19日に行なった現地調査では、幹線道路から入り込んだ人里離れた場所にある盗掘跡を目の当たりにして、防止対策の難しさを痛感しました。地元区長さんや専門家などで組織された「窯跡保存対策協議会」や地元との連携を密にされ、市民共有の財産である古窯跡に対してさらに盗掘防止が図られるよう要望しました。また、市民に「古唐津」窯跡が伊万里市内にも存在することを広く知って頂くため、歴史民俗資料館で「古唐津陶片展覧会」を開催する予算が合わせて計上されました。8月に開催の予定ですので、どうぞお出掛けください。



阿房谷下窯跡（松浦町）

「犬取締り条例の一部改正」は県の関連条例改正に伴うもので、現在市内公民館で行われてきた犬の引き



現地視察

取りが、10月から県保健福祉事務所（保健所）に一元化されるものです。これまで最終的に引き取り手のない犬は処分されていましたが、さらに愛護のために、新たな飼い主を探すための措置です。「回収場所の一元化は、市民にとって不便になるのではないか」との意見もありました。また10月からは引き取り料も必要となるとの説明を受けました。

補正予算では、衛生費で環境センター所長に専属の嘱託職員を配置するための報酬が計上されました。運転トラブル等への緊急対応や機器の補修等に専門的技術を必要とする業務であり、適任者の配置を考えているとの説明でした。

教育費では「特別支援サポート事業」として、当初予算で支援員を7名配置しましたが、緊急な必要から10名へと増員されます。支援員は、車椅子を使用する児童生徒や、LD（学習障がい）、ADHD（注意欠陥多動性障がい）などの障がいのために特別な支援を必要とする児童生徒に対し、担任の補助的な手助けをして頂きます。ここで、就学前からのサポートの必要性についての意見がありました。「きらきら伊万里っ子事業」では県の助成を活用して「伊万里っ子しぐさ」のDVDを作成し、児童生徒への啓発を図ります。「ぜひ議会でも視聴したい」との要望がありました。「スクールソーシャルワーカー活用事業」は、問題を抱えた児童生徒や保護者との相談活動を行い、地域や関係機関と連携し支援体制の構築を図るために県が予算化したもので、伊万里市もいち早く取り組みます。学校適応教室せいら西教室（旧ポリテクセンター）と2中学校に配置し、市内全校への対応をして頂きます。

◎岩橋 紀行 ○山崎 秀明
占野 秀男 高木 久彦 島田 布弘
田中 啓三 福田 喜一 盛 泰子

※科料：罰金刑とともに財産刑とされるが、罰金よりも小額で比較的軽微な犯罪に対して科せられる。現行刑法では1,000円以上1万円未満。

産業建設委員会

★所管 産業部、農業委員会、建設部、水道部

当委員会に付託されました条例議案3件、補正議案の内「農林水産業費・商工費」特別会計補正議案「水道事業特別会計補正予算・公共下水道事業特別会計補正予算」について、慎重審議の結果、原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

議案第64号・伊万里市企業立地の促進等による地域における産業集積の形成及び活性化に関する法律第10条第1項の規定に基づく準則を定める条例制定に付いては、議案質疑においても、複数の議員から質問があり委員会では時間をかけて審議いたしました、

本市に於いては、工業団地はほぼ完売の状態であり、今後立地勧奨に於いても他市よりも優位な条件が必要と思われます。県内でも4市1町で制定され、6月議会で1町が提案されています。



七ツ島工業団地

議案69号・伊万里市駅ビル条例の一部を改正する条例制定に付いては、駅ビルは東・西ビルに分かれており、東ビルのJRの駅舎はJRの建物であり、残りの施設と西ビルの建物（施設）が対象です。この駅ビルの管理業務を「指定管理者」へ業務委託を行う条例の一部改正です。今後、庁内で指定管理者選定後、議決を経て決定し、指定管理者での運営となりますが、今後は市民へのサービス・管理業務の課題等が重要と考えられます。

議案第65号・伊万里市建築協定に関する条例制定に付いては、平成20年度からの事業計



県道伊万里停車場線

画で、都市計画道路・八谷搦駅前線「県道、伊万里停車場線」の第2期工事の事業が開始されるが、この条例に付いては、建築基準法（昭和25年法律第201号）第69条の規定に基づき、建築協定に関し必要な事項を定めるものとする。一定の区域を定め、その区域内における建築物の位置、構造、用途、形態、意匠又は建築設備に関する基準についての協定を締結することが出来るものです。今回、都市計画道路区域内270m改修に併せて地元で協議が行われているとの説明を受けました。この条例は、受付条例で受け付け後、20日間の縦覧を行い、県知事の認可が必要となっています。また区域内の同意も必要されていますが、今後の進展を見守りたいと思います。完成するのが楽しみです。その他の事項では意見書の提出で「森林・林業・材木産業施策の積極的な展開を求める意見書」、また議会提案で「伊万里市農業委員会の推薦」を行ったところです。農業委員会の委員改選期にあたり、選挙区内からの委員2名減・議会選出委員が2名減の計4名の定数削減が行われ、伊万里市市内4ブロックの中で削減されました。中部地区・北部地区内に議会選出委員2名を充てました。

◎前田儀三郎 ○渡邊 英洋
松尾 雅宏 松尾 博幸 草野 讓
堀 良夫 内山 泰宏 浜野 義則

議会運営委員会

5月27日～29日の2泊3日で、議会運営に関する視察研修を実施しました。

1 佐賀市議会

- ・3月議会では補正予算を会期途中で議決
- ・一般質問の人数確定後に日程を組む
- ・人事議会において執行部に出席を要請しない
- ・会派要件は3名以上。現在7会派。2名以下の準会派も、議運にはオブザーバー参加できる。

2 山口県柳井市議会

- ◎山本達也議運委員長にご同席頂き、中身の濃い意見交換ができた。また議案配布方法の変更など伊万里市議会が取り組んできた改革を参考にしたいとお言葉を頂いた。
- ・政務調査費実績報告書を議会HPで積極的に公開する予定
- ・一日一委員会制。委員外議員の発言は、委員の質疑終了後に委員会の許可を得て行う
- ・ほとんどの議会において、議運委員長も委員長報告を行う。

◎会派（平成12年4月導入。現在6会派）

★メリット

- ・会派代表者会議で会派間の意見調整、連絡、協議などを行うことにより、本会議、議運、全員協議会等がスムーズに進行できる
- ・会派室での勉強会や政策協議が可能
- ・会派による視察研修で多くのことが学べる

★デメリット

- ・人数の多い会派が独断で物事を決めると、感情的な対立で議会運営が難しくなる



柳井市議会本会議場

- ・会派の離合集散を繰り返し、本来の政策集団としての目的から逸脱する
 - ・政策集団としての会派ではなく、仲良しグループになることがある
- ※会派に異動があった場合でも、会派室の造作は行わない。

3 福岡県飯塚市議会

- ・独自の政務調査費条例を制定。第2条に「会派及び議員の義務」を明記すると同時に、実績報告書の自由閲覧制度を設ける
- ・一般質問は、議員の持ち時間を30分とするのみで答弁時間を含まない
- ・当初予算では、予算特別委員会を編成する
- ・決算委員会報告は、12月議会冒頭に行う
- ・議案質疑は完全通告制
- ・3名以上を交渉会派とし、代表者会議には交渉会派と公党会派のみメンバーを出せる
- ・議運（10人）は3名以上の会派から、3人（正副議長・監査委員を除く）につき1人を出す

◎研修終了後、柳井市・飯塚市では観光ボランティアの案内で、街並みや嘉穂劇場などを見学させて頂きました。



旧伊藤伝右衛門邸（飯塚市）

今後、研修の成果をもとに議論を深め、出来ることから取り組む予定です。

また、「会議規則」の改正を行いました。地方自治法改正により議員が議案を提出する際の人数要件が緩和されたため、意見書等の機関意思の場合も同様とし、分かりやすい表現に変えるものです。

◎盛 泰子 ○前田 久年 松永 孝三
 松尾 博幸 船津 賢次 内山 泰宏
 岩橋 紀行 田中 啓三 浜野 義則

一 般 質 問 (質問順)

議員名	質問事項	議員名	質問事項	
下平 美代 (一問一答)	1. 後期高齢者医療制度施行後の市民の要望と制度の問題点について 2. 大川内キャンプ場の運営について	島田 布弘 (総括)	1. 塚部市政の喫緊の課題について (1) 伊万里・有田地区公的病院建設について (2) 県西部広域ごみ処理施設について (3) 伊万里市松浦町、武雄市若木町における企業立地促進法による工業団地整備について (4) 国道498号整備について (5) 戸栗美術館について (6) ウェルサンピア伊万里について	
田中 啓三 (一問一答)	1. 黒澤記念館建設計画の進捗状況について		樋渡 雅純 (一問一答)	1. 学校の耐震化の推進 (1) 施設の整備・耐震化への認識 (2) 耐震改修状況調査 (3) 財政支援を機にスピードUPを 2. アレルギー疾患への取り組み (1) 光化学スモッグ対応 (2) アレルギー疾患の有病率の動向 (3) アレルギー疾患への対応 (4) 「ガイドライン」に基づく今後の方向性 3. 肺炎球菌ワクチンの公的助成
占野 秀男 (総括)	1. 第5次総合計画について 2. 住みたいまちの評価について 3. 黒澤明記念館サテライトスタジオの今後について	浜野 義則 (一問一答)		1. 生活保護者の通院費について 2. 防犯灯の整備について 3. 地域公共交通の整備について
多久島 繁 (一問一答)	1. 新型インフルエンザについて 2. 臨港道路延長について			草野 謙 (一問一答)
高木 久彦 (一問一答)	1. トンテントン祭りの行方について 2. 伊万里湾総合開発について	1. 企業誘致の効果について (1) SUMCOの場合 ①税収 ②雇用 ③定住 2. 納税相談の窓口対応について 3. 社会保険浦之崎病院の存続に向けての市の対応は		
船津 賢次 (一問一答)	1. 指定管理者制度について (1) 既に導入している施設についての検証 (2) 新たな導入への検討状況 2. 就学前の発達障がい児への支援について 3. 信号機の新設、改良について (1) あさひが丘下交差点への設置 (2) 伊万里駅前交差点信号機の時差式化 4. 有明佐賀空港「乗り合いタクシー事業」について			

後期高齢者
医療制度

下平 美代

質問 ①制度に該当する人数と、質問等に対しての対応。②広域連合に市民の声は届いているか。③制度の名称を「長寿医療制度」と呼ぶのはなぜか。④保険料の徴収方法。⑤制度に対する市長、部長の意見。

答弁 市民部長

①制度の該当者約7900人(女5000人、男2900人)、職員1名増で対応し、4月は1日100件。②広域連合には市民の声は届きにくい。運営は県内各市町の拠出金。当市の20年度負担金は3183万2千円。18年度からの合計は6178万2千円。会議の情報公開は充分でない議事録をホームページに載せるよう要望している。③後期高齢者医療制度は「長寿医療制度」と呼ぶよう国、

県からの事務連絡があつている。(中身変更なし)④年金から天引き(5300人)納付書納め(1000人)減免(1600人)⑤広域連合が中心に事務処理を行っているが、連携にも課題も多い。市民への説明に疑問に思うこともあるが、制度だから更に説明責任を果たしたい。

答弁 市長

⑤75歳以上の人を「後期高齢者」と呼ぶ名称は高齢者の心を傷つけたと感じる。年金からの天引きも疑問に思う。高齢者への尊厳と国民皆保険制度は保たねばならないと思う。

大川内キャンプ場

質問 宿泊利用が中止されているが(屋根のない博物館)的捉え方で宿泊利用再開を。

答弁 市長

一度には無理だが1棟ずつでもバンガローを整備して期待に応えたい。

黒澤明記念館建設
設計画の進捗状況について

田中 啓三

質問 黒澤明記念館が決定したのが平成10年で、翌年の7月には完成までのつなぎ施設として、同館のサテライトスタジオがオープンしたが、黒澤明文化財団の寄付金集めが難航するなど、建設計画が大幅に遅れ、すでに10年が経過している。

今日まで、平成10年度から19年度までに、権利取得、建設予定地の造成、サテライトの維持管理費等を含め、約3億5千万円が支出されている。

また、サテライトスタジオについても、12年度の入館者が67,928名あったが、19年度は21,740名と減少している状況にある。

サテライトスタジオの現状及び、記念館建設に向けて財団は明確な説明を早急

に行うべきでないか。

答弁 政策経営部長

財団は、黒澤監督の生誕100周年にあたる平成22年に記念事業を大手企業数社と計画、協議している段階であるが、22年建設実現のタイムリミットが目前にきていることから、財団に対し早急な事業概要などの説明を求めていきたい。

住みたいまち
の評価は

占野 秀男

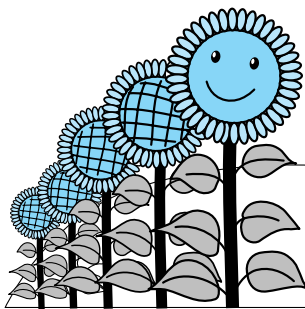
質問 市制50周年の年から4年間「住みたいまち、行きたいまち」づくりを目指して取り組んできたがその評価はどうか。

一つの指針である全国市町村の住みたいまちの評価は、約760市のうち522位となつていて意外と低い。今後の目標はなにか。

答弁 市長

雇用、食文化、福祉事業、子育て支援、道路網の整備など各方面で前進している。評価を得た面もあり今後も300位以内といわず、もっと評価されるよう努力したい。

質問 第5次総合計画に着手されるが、目標を並べるだけでなく実効性のあるものにするため、第4次では触れなかった「歳入」との整合性を入れるべきではないか。また市民の声を反映



一般質問

するためには各種団体の代表だけでなく、情報を共有している議員の意見も聞いてより良いものにすべきと思うが議会との協議はどうするのか。市民がわかりやすくするため横文字は減らして作成してほしい。

【答弁】政策経営部長

財務分析など実施計画との整合性を図るため、前段に取り入れたい。審議会に諮った後、議会への説明協議をしたい。横文字にはペーじ下などに説明を入れたい。

【質問】黒澤記念館「サテライトスタジオ」の運営についていい話を聞かないが、商店街の活性化にも役割を果たしているが今後の見通しはどうか。

【答弁】政策経営部長

2年後は「黒澤明監督」の生誕100周年の記念事業も計画されており、記念館の建設にも一つのめども立つと思う。サテライトスタジオについては、今後も運営していただけると思う。

新型コロナウイルスの取り組み方

多久島 繁

【質問】新型コロナウイルスの感染対策に対する市の対応は。

【答弁】市民部長

市は県のガイドラインに沿って進めていくが、大流行の兆しがあれば知事の発令により関係機関と対処する。

【質問】市民へ周知方法や予防などの広報活動・啓発計画は。

【答弁】市民部長

現在は出来てないが、知識を持ってもらうための広報活動をしていく。

【質問】過去流行した事例で、効果を発揮したといわれるタミフルの備蓄量は何か。

【答弁】市民部長

大流行時(パンデミック)に使用できるのは50人分。【質問】発症患者のための市民病院における受け入れ態

勢状況及び設備はどうなのか。

【答弁】市民病院事務長

県内医療機関六カ所と対処する。市民病院ではパンデミック対応には30床のベッド、発熱外来を新設し一般病棟とは別にしている。

【質問】事前の準備態勢が急務と思うが、危機管理体制はどうとるか。

【答弁】市長

市としても対応について周知徹底を行い、県の行動計画策定に則り関係医療機関と共に対処していきたい。

久原臨港道路延長について

【質問】久原踏切の危険性をふまえたうえで、臨港道路と山代ICがタッチ出来るよう早期対策の必要性について進展状況はどうなっているか。

【答弁】建設部長

質問があつた議会後、進捗はない。国とも話しているが、関係機関に提案活動は続けたい。

トントン祭り
の行方について

高木 久彦

【質問】一昨年の大きな事故発生により、昨年は中止されたが、祭りはこの先どうなるのか。

【答弁】産業部長

トントン祭奉賛会では、四つの分科会で、引き続き対応が検討されている。今年のトントン祭りは、10月23日・24日の両日、白神輿と赤神輿それに荒神輿と団車を加え、神事として巡行のみが行われる。なお、24日には、恒例のいまり秋祭りが開催されることになっている。

【答弁】副市長

トントン祭りは、誘客や経済活動に大いに影響するものであり、市としては、安全性が確保され、市民の理解が得られるならば、是非再開されることを期待している。

伊万里湾総合開発について

【質問】七ツ島工業団地や伊万里団地は、ほとんど工場が張り付き満杯状態である。更に進展を図るためには、新たに埠頭や工業団地の造成が必要である。浦之崎地区の廃棄物処理用地の一部用途変更を含む港湾計画の見直しや、遊覧船等海のレジャー・農水産物販売所など観光振興を含めた伊万里湾総合開発をどう考えているか。

【答弁】市長

伊万里湾は、かけがえない市の財産であり、これを如何に活用するかが鍵を握っていると思う。現在策定中の第5次伊万里市総合計画にも位置付けをし、伊万里湾の利活用を図りたい。課題も多々あるが、水深23メートル浦之崎地区の廃棄物処理用地の計画変更には努力したい。



一般質問

企業誘致の効果
について(株)S
MCOの場合

船津 賢次

質問 ① 税収について

第4工水の元利償還金総額は152億円。伊万里市の負担は76億円となっている。この元利償還金については企業からの税収で賄える。このように理解しているか。

② 雇用について

「事業計画書」によると、要員計画について、半導体シリコンウエハーの製造で当初200人最終800人、太陽光発電用シリコンウエハーの製造で100人となっているが、これまでの採用実績と市内・市外の割合、雇用の形態(正規、非正規)、また、採用の年齢制限は。

③ 定住について

かつては企業城下町という言葉もあったように大きな企業が進出してくれば住宅ができ人口も増えるとい

うことがあったが、今度のサムコの事業拡張では約1000人の新規雇用が見込まれているがそういう動きがない。市民の期待は大きかったと思うが、定住促進について市はどのように考えているか。高校卒業生の就職で県外流失をどれだけ防ぐ効果があっているか。

答弁 産業部長

② 800人の新規採用があり、市内からの採用は3割。正規、非正規別は全従業員(2600人)の8割が正規雇用である。

③ 今年三月の高校卒業生で就職希望者436人のうち県内に就職した者209人、その内90人がサムコに就職している。

二、納税相談の窓口対応について(省略)

三、社会保険浦之崎病院の存続にむけての市の対応は(省略)



信号機の新設・改良

盛 泰子

質問 信号機の新設・改良が要望されている箇所が複数あるが①県の予算は②警察との協議はどうなっているか。

答弁 総務部長

① 現在、市内の新設要望箇所数は14。昨年度設置箇所は市内1、県内全体で14。本年度県予算は昨年より削減され8495万7千円。

② 数年来優先順位1位である「あさひが丘下」は、昨日県警本部から調査に見えた。国道202号拡幅工事との兼ね合い、バイパス開通に伴う「啓成中学校下」への設置等を勘案され、公安委員会での決定となる。

駅前交差点の時差式への改良は、今年になって警察庁から「時差式信号は危険なので、取りやめなさい」との指導がなされているた

め困難な状況にある。

答弁 市長

県に市長会から要望している信号機予算が削減されたのは残念。「あさひが丘下」は国道事務所長から「設置へ向けて現段階で出来る協力はする」との約束を頂いている。

指定管理者制度

質問 図書館への導入について教育委員会での議論は。導入後にやめた事例は。

答弁 教育部長

教委事務局では図書館の使命・責任、ボランティアとの連携、経費の削減などについて検討してきた。報道によれば島根県安来市では「図書選定の公平・中立を期すことや、市民ニーズに応えるため職員に高い専門性が必要であることから直営に戻す」とのこと。今後、定例教育委員会で議論し、方針を決定する。

(二問省略)

塚部市政の喫緊の課題について

島田 布弘

質問 新公的病院の医師確保・経営状況は。

答弁 病院事務長・市長

町長始め人脈も頼り医師確保につとめたい。

開院予定である平成23年は、3億9600万円の赤字を見込んでいます。開院後5年間は赤字が続くが、その後は黒字を予測している。

質問 広域ゴミ処理場のゴミ収集車両の状況。

答弁 市民部長

一日200台を予測している。又、建設後10年後から、新しい建設地を伊万里市以外に話を進めていきます。

質問 松浦町・若木町の企業誘致は凍結状態との発言は、市の積極性が見られない。

答弁 産業部長

県の方式が変更になったが伊万里市で独自で可能性

一般質問

を調査したい。

質問 国道498号の整備は。

答弁 建設部長

下平峠300mの道路改修の予算を伊万里土木事務所より本庁へ要求中。又、大坪町祇園橋は50cm拡幅する。桃川橋もコンクリート打設等で本年中に作業予定。

質問 戸栗美術館の建設はどうなっているか。

答弁 政策経営部長

地元窯元組合と、今後誠心誠意話を進めて、早急な実現を図りたい。

質問 ウェルサンピアが8月7日入札予定だが。

答弁 産業部長

市としては限度があるが、今の状態の継続に向けて、方策を探りたい。又、80名近い雇用、仕入れ納入業者の現状もあり、継続について最大の努力をする。

質問 総括して市長の考えは。

答弁 市長
職員一丸となり重要案件に全力をつくす。

学校の耐震化

樋渡 雅純

質問 これまでの地震発生のために老朽施設の整備・耐震性の確保が指摘されている。学校施設の80%は防災拠点である①耐震化の認識について。②市内耐震改修状況について。

答弁 教育部長

①基本的に学校は、学習生活の場・避難場所として最重要課題ととらえている。今後、適切な維持管理・必要に応じて早急に耐震補修を行っていく。

②耐震優先度調査を小・中学校40棟で実施している。今年、小1校・中2校で耐震診断を行う予定。

質問 今回関連の、法改正もあり、地震補強事業はこれまでの補助率に1/2から2/3に上がった。実質的な市の負担も約31%から13%へと大きく減少する。財政支援を機にスピードア

ップを。

答弁 市長

制度を利用し、しっかりと取り組んでいく。

アレルギー疾患の取り組み

質問 国民病ともいわれるアレルギー疾患で悩み苦しむ人が増加している。①市内学校における有病率の実態について。②各学校にガイドラインが配布されているが、これを活かした今後の取り組みは。

答弁 教育部長

①小・中学校の生徒数は3573人、そのうち、喘息1409人、アトピー性皮膚炎225人、アレルギー鼻炎560人、食物アレルギー192人。②ガイドラインを活用した研修を、共通理解を深めていく。学校・保護者・主治医との連携を深め、管理指導表を活用しながら安全安心を勧める。
(肺炎球菌の公的助成について)は省略

生活保護者の通院費支給について

浜野 義則

質問 今年4月の厚生労働省からの通知により、被保護者の通院費が原則的に廃止になり、その後6月には運用の見直しについて再通知があつているが、市の対応は。

答弁 市民部長

4月の通知を受け県との協議を経て、6月から一部例外的なものを除いて通院費が支給されなくなったことへの主旨説明を行つてきたが、6月の再通知を受けて必要な人に「最低限度の移送で、最小限度の支給をする」という従来の給付要綱を当面継続していきたい。

地域公共交通の整備

質問 地域交通の整備は市の重要な課題である。これ

までもMRの一部経費負担や路線バスの赤字補填などで維持・存続を図ってきたが「伊万里市民と考える市民交通会議」の答申、路線バスの乗降調査、県の地域交通支援モデル事業への申請等を踏まえてどのような対応を考えているのか。

答弁 市長・産業部長

地域交通の整備は地域の実情に合った取り組みを行うことが大事だ。市民交通会議の答申等を参考にして地域や事業者等の意見を十分聞きながら対応していきたい。

現在、県の地域交通支援モデル事業に東山代町から申請されていることは、地域の自主的な取り組みとして評価されるものであり、採択されるよう強く要請している。今後も必要に応じて運営面や経費的な問題も含めて積極的に支援していきたい。新しい交通システムに変更された場合の赤字補填は、金額が従来より少なくなれば可能だと考えている。

ウエルサンピア伊万里の売却について

草野 議

質問 ①伊万里のシンボリックな施設である年金センターがいよいよ売りに出された。8月7日が入札日である。市としてどの様に対応するのか。②この施設を残してほしいとの署名運動（平成17年7月）では、実に31,716名の方から力強いご支援を受けた。市としてこの事をどう捉えるか③今でも新しい病院の建設場所として年金センターが一番いいと云う声を聴くが見直す考えはないか。

答弁 市長

①草野議員が質問をされた様に公園法の適用を受けるとか、自治体の特典として特別に購入出来る様な施策を研究したがいざれも様々な条件をクリアする事が出来なかった②多くの市民の残してほしいと云う切

なる願いであり、市もその様に考えている。そこで従来どおりの経営を継続されれば固定資産税等の減免措置を講じる考えだ。③すでに有田側とも協議を進めながらであり、場所についても今、地権者との交渉を進められており、見直しは難しい。

旧ダイエー伊万里店跡地について

質問 本市の一等地である場所に数年も空ビルとして放置されたままだが、持主との協議はどこまで進んでいるか。

答弁 産業部長

これまで何回となく協議をし、持主側は売却もOKとの事。又6社からの問合せもあつているとの事。

質問 何れにしても早期の解決を市民は望んでいる。

答弁 市長

市にもマンションやホテル建設の問合せがあつている。

暑中お見舞い申し上げます



公職選挙法の規定により、選挙区内の皆さんへの金品を伴った初盆のお参りや、時候のご挨拶には制限がありますので、失礼させていただきます。 議員一同

農業委員会委員 (議会推薦)

池田 昭男 ・ 福田 義晴

編集後記



二人の会話
花子…伊万里の税収も大きく伸びたようだけど実際はどうなの？

太郎…そうだね、去年はIT関連の企業が好調で、法人市民税が15億4千万円程増え、全体の収入も税源移譲などもあつて15%程度の伸びになつているんだけど…

花子…増えた分自由に使えるんでしょ？みんな期待しているわよ。

太郎…実は増えた分全部使えそうにもないよ。収入の増減によつて国からの交付税のお金も増減するし昨年大きく増えた分一定の割合で翌年度以降に清算される仕組みになつていて、今年から3年間約3億2000万円づつ返済することになるようだし…

花子…増収の15億4000万円、どう使われたの？
太郎…返済や財源を調整する為の基金に10億円ほど積み立

ててあるし、基金への返済に回したりで、実際には2億円程度今年度予算に繰り入れられるのかなあ。

花子…伊万里市の財布も、ホクホクとまではいかないけど昨年の収入増が、身近なところで実感できればいいし、堅実に運用してほしいわね。
太郎…これからも関心をもつて、見守っていききたいね。

街なかで交される様々な会話を耳をたてながら、動き回る今日この頃です。(雅)

◎樋渡雅純 ○山崎秀明
多久島繁 前田久年
渡邊英洋
顧問 占野秀男、盛泰子

発行 伊万里市議会
伊万里市立花町二三五―一
☎0955-23-2111
☎0955-22-1277
E-mail: gikai@city.inari.jp
編集 市議会だより編集委員会
印刷 山口印刷株式会社